

今日の説教のポイント <マタイによる福音書5章38-48節>

どうして敵を愛せるのか？ 今の世界にも必要な愛敵の理由とは。

- ①「しかし、わたしは言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬も向けなさい。」(39)

「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬も向けなさい」。イエスが語られた有名な言葉です。しかし、多くの方はこう思うでしょう、「そんなことをしても、現実にはレ・ミゼラブルのジャンバルジャンのようにはいかない。罪には罰だ」と。ではどうしてイエス様は愛敵の教えを命じられたのでしょうか？

- ②「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」

『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている」なんて妙な気がするかもしれませんが、旧約聖書の教えはまず同胞の中での愛でした(レビ記19:17-18)。しかしイエス様はそれを越える愛を説かれたとも言えるのです。「自分を愛してくれる者や、自分の兄弟を愛したとてどれほどのものか」(46-47)と言われている所以です。そのような愛をイエス様が説かれた理由が次のようなものでした。

- ③「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせて下さるかたである。」(45)

確かに神様は、悪いことをした人にも良いことをした人にも陽の光、雨の滴を平等に降り注がせて下さいます。同胞だけでなく全ての人を愛せよ、さらに敵をも愛せよと教えられたイエス様のこの例えから、どのようなことを考えさせられるでしょうか。

自国民や自分の身内のしたことには甘くなる私たち。そのために多くの過ちを犯して来た歴史を持つ私たち。しかし、神様はなお、そんな私たち、すなわち、相手の右の頬を打ってなお左の頬をも打つようなことをしてきた私たちに、今も陽の光、雨の滴を注いで下さっている。私たちが御子イエス・キリストによって知らされた神様の赦しの愛とはそのようなものだったのだと気づかされるのです。

今回の原発事故で、一時世界は敵を憎む思いを忘れたかのようにになりました。ここにあったものを世界はよく考えなければならないと思います。特に私たち日本人は被害者だけでなく加害者である面を深く考える時に、そこから新しい希望ある将来も見えて来ると思います。